

仮説設定から，見通しをもって 問題解決することのできる児童の育成

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

向井 綺音

本研究では、「根拠のある仮説を設定することができる児童」，「設定した仮説を意識し，見通しをもって主体的に問題解決しようとする児童」の育成を目的とし，授業実践を行った。授業実践では，問題解決を促進するための学習環境の工夫，単元を通した疑問につながる事象の提示，仮説の設定につながる定型文の提示の3つを手立てとした。実践の結果，学習環境を工夫したことで，仮説を立てるときには，根拠となる既習内容や身近な事象を想起する記述が見られた。事象を提示したことで，単元を通した疑問を引き出すことができ，予想を想起して結果を記述する姿が見られた。さらに，仮説を立てる際に定型文を提示したことで，実験結果の具体的な見通しをもたせることができた。以上のことから，根拠のある仮説を設定することができる児童を育成することができた。一方で，実験結果と単元を通した目的意識をつなげることができず，児童が目的意識をもち，見通しをもって問題解決する点には課題が残った。